

平成 27 年度 第 1 回磐田市立図書館協議会会議録

日 時 平成 27 年 7 月 8 日（水） 午後 3 時から午後 4 時 40 分まで

場 所 磐田市立中央図書館 2 階会議室

出席者 委員：兼子修美、内田直美、浅羽浩、鈴木正善、平野富美子、山中光枝、
青島公悦、松野正比呂、原田緑、寺田美津子（以上敬称略）
（事務局等）

村松啓至教育長

中央図書館：伊藤八重子館長、伊東直久館長補佐、青島竜二主査
松本栄一囑託

福田図書館：杉本定司館長 竜洋図書館：高尾純男館長

豊田図書館：永田幸義館長 豊岡図書館：伊藤篤和館長

内 容 以下のとおり

1 開 会（青島主査）

出席状況のご報告をいたします。委員 10 名全員が出席され、過半数を超えていますので、本日の会議は成立しております。

なお、「磐田市審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づき、本日の会議開催について、ホームページで周知しましたが、傍聴者はありません。

それではただ今から、平成 27 年度第 1 回磐田市立図書館協議会を開会いたします。

本日の司会進行は、中央図書館の青島が務めさせていただきます。ご協力の程よろしく
お願いいたします。

2 委員への委嘱状交付

任期満了に伴い、教育長より新委員 10 名に委嘱状を交付する。

任期は、平成 27 年 6 月 1 日から平成 29 年 5 月 31 日まで

3 自己紹介

各委員及び教育長以下市職員自己紹介をする。

4 会長選出

磐田市立図書館条例施行規則第 14 条 2 項で、「会長は委員の互選とする」となっているため、委員に諮ったところ、鈴木委員より青島委員を推薦する旨の発言がある。

全委員の賛同により、青島委員を会長に選出する。

5 職務代理者指名

磐田市立図書館条例施行規則第 14 条第 4 項により、青島会長が山中委員を職務代理者として指名する。

6 会長あいさつ

図書館運営は難しいことが多いと思いますが、磐田市立図書館 5 館は、各館長さんを中心に地域の特性やニーズをとらえ、地域密着型の運営をし、立派な地域貢献を果たしていると思います。

さて今回は、人口減少という我が国の大きな課題のもとで、安心して子どもを産み育てていくために、地域での支援を図書館サービスというテーマに結び付け、地域での子育ての環境育成や手助けをするにはどのようにしていけばよいかを議題にしています。この重要な課題に図書館が取り組んでいる中で、委員の皆さんにも積極的にご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

7 教育長あいさつ

平成 27 年度第 1 回磐田市立図書館協議会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

青島会長様をはじめ、委員の皆様におかれましては、日頃から図書館の運営はもとより、教育行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

磐田市立図書館は、「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館をめざします」を基本方針に掲げ、市民が活用しやすい生涯学習の拠点施設として、利用者の安全確保を第一とし、計画的な改修・工事による施設・設備の維持管理を行ってまいりました。

昨年度、豊田図書館の天井耐震工事を実施したことにより、平成 24 年度からの地震対策事業も完了となりました。

今年度以降も経年劣化に伴う、改修や修繕等を実施することにより、継続して施設・設備の維持管理に努めてまいります。

さて、図書館は地域の情報拠点として、様々な情報資源を収集、整理、保存し、これらの提供を通して、個人や地域が抱える課題の解決を支援する役割を担っています。近年は、紙媒体に加え、電子媒体の提供も視野に入れたハイブリッド図書館サービスの展開も求められています。

本市におきましては、県内図書館の中で先行して地域資料のデジタル化作業に取り組んだ結果、昨年度、図書館所蔵の地域資料を選定・選別し、地域資料のデジタル化委託事業を実施することができました。これに伴い、電子書籍を身近なものとして市民に接してもらうために、講座や講演会を開催し、好評を得ました。今年度からは、デジタル化した地域資料を図書館ホームページ上で公開しています。

また、子どもの成長過程において、未知の事柄への興味や関心を高め、思考力・判断力・表現力を養う上で、読書の果たす役割はきわめて重要です。図書館は、家庭や学校等との連携を図りながら、子どもたちの読書環境の充実に努め、今後も地道な取り組みを継続していきたいと思います。このことに関連して、「子育て世代への図書館サービスや施策」について、本日の議題とさせていただいておりますので、是非、委員の皆様からの忌憚のない活発なご意見等を賜り、図書館サービスのさらなる充実に向けての参考とさせていただきたいと考えております。

最後になりますが、委員の皆様には今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

8 議 事

(司 会): 会議は、磐田市立図書館条例施行第 15 条 1 項で、「会長が議長となる」と規定されておりますので、青島会長に議事の進行をお願いします。

(議 長): それでは、ただ今から議事に入ります。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

最初に、議題(1)の「平成 26 年度事業報告及び平成 27 年度主要事業について」事務局より説明をお願いします。

(伊藤館長): 平成 26 年度事業報告及び平成 27 年度主要事業についてご説明いたします。始めに、平成 26 年度事業報告ですが、本日の資料 2 ページからお願いします。

1 の開館日数は、豊田図書館において耐震補強工事期間内に、展示室等での一部開館対応もいたしましたが、完全休館の期間がありましたので、前年度よりも開館日数は減少となっています。

2 の利用状況は、中央図書館、竜洋図書館が前年度に比べて 増加、福田図書館、豊田図書館は減少しています。これは、平成 25 年度に竜洋図書館が耐震補強工事のために大幅に減少したため、平成 26 年度は平成 25 年度に比べると増加しています。また、豊田図書館は耐震補強工事のために減少しており、中央図書館はその影響もあり増加しています。

入館者数は 5 館合計で 599,461 人、貸出利用者数は 338,571 人、貸出点数は 1,306,374 点です。新たな利用者として、3,377 人が図書館カードを作成していただきました。

次に 4 ページの館内サービス状況ですが、所蔵予約、リクエストを合わせまして 115,723 件でした。この内、来館予約は減少し、インターネットによる WEB 予約が増えている状況にあります。また、レファレンス件数が中央図書館で大幅に増加しているのは、レファレンス業務の周知に努めたことやレファレンスカウンターを専用に設けていることから、固定の利用者や、市内外からの調査依頼が増えていることが要因として考えられます。

その他事業のおはなし会や講演会等の参加人数は、それぞれに周知に努めたこともあり、昨年度に比べて増加しました。

また、平成 26 年度には磐田市立図書館としては初めて、図書館評価を実施いたしました。

平成 25 年度から準備をし、5 月に来館者アンケート、8 月に市政モニターアンケートを実施し、それらの結果を踏まえ、職員による自己評価と図書館協議会委員の方々による外部評価を行い、図書館 HP 上で公表しました。今後は、指摘事項の早期改善に努め、図書館サービスの充実に努めてまいりたいと思います。

次に 7 ページの(2)の平成 27 年度主要事業についてですが、基本方針と運営方針は、平成 26 年度までの方針を継続いたします。

また、重点事業としましては、図書館評価の結果を踏まえ、図書館サービス

の充実、業務の効率化、施設の維持管理の3点を重点に、5館によるネットワークを最大限生かした図書館運営を図ります。

また、社会の変化に対応した新たなサービスについて研究し、市民にとって快適で利用しやすい図書館をめざします。

平成27年度は、施設の維持管理に努めると共に、創意工夫や改善意識を高め、図書館サービスの向上を図ります。資料整備につきましては、限られた予算の中でより分析的な視点を持ち、各図書館で有効な資料収集にあたり、地域資料の電子書籍化を継続して推進します。

また、先進地視察、研修等を通じて人材育成に努め、市民への図書館サービスの向上に繋げていきたいと思えます。具体的には7ページから8ページに記載してありますとおりです。

新規の取組としましては、平成27年度は「磐田市子ども読書活動推進計画(第2次計画)」の最終年度ですので、5年間の成果と課題をしっかりと検証し、次の計画策定に繋げていきたいと考えています。

最後になりますが、平成28年10月から新しい図書館システムを導入していく予定ですので、それに向けての準備を今年度から計画的に進めていきます。以上です。よろしくお願ひします。

(議長): ありがとうございます。ただ今説明いただいた議題(1)について、ご質問等はございますか。

(議長): 特にご質問等がないようですので、次に(2)の「子育て世代への図書館サービスについて」を議題とします。委員の皆さんの自由な積極的な意見をお願いします。

(平野委員): 子育て世代のお母さんは本当に忙しいので、平日よりも土・日曜日に図書館が午後7時まで開館していれば、子どもと一緒に来館できるのではないかと思います。

(松野委員): 男性は社会に出ていくと図書館から遠のいて、60歳を過ぎるまでは、本は自分で買うことが多く、なかなか図書館に行くことができない人が多いのではないのでしょうか。

若い世代が図書館に足を運んでもらえるような、展示や講座などを企画したらいいと思います。これからの子育て世代のために、子どもの本のコーナーを増やしたり、騒いでもいいような図書館にするなど思い切った施策も必要だと思います。

(内田委員): 親が図書館へ連れて行ってもらえる子どもはいいのですが、自分で行けない子どもたちもたくさんいます。図書館に行ける子どもと行けない子どものギャップが大きいと思います。以前は移動バスが学校へ来てくれてよかったことを思い出します。交流センターに一定の期間でも本を置いてもらえれば子どもたちも歩いて行けて喜ぶと思います。

(寺田委員): 斎藤惇夫さんの講演会の聴講者が若い年代が少なかったのが残念でした。

若い母親や幼稚園の関係者がもっと聴講するように、積極的な働きかけを図書館がして欲しいと思いました。

私は、0歳から3歳位までのおはなし会を月1回行っていますが、そこに来る親は図書館に対する意識が高い人たちだと思いますが、図書館から遠のいている若い親御さんにも、本の大切さを知ってもらえるような働きかけの方法を考えていかなければいけないと感じています。

また、絵本から離れた中学生など若い世代が幼い頃読んでもらった本の記憶を呼び起こし、本の大切さを再認識できるように図書館と学校が連携してもらいたいと思います。

(浅羽委員): 子育て世代の支援には、親を支援する観点と読書環境を提供するなど子どもに支援するという2つの側面があると思います。

子育て世代の親はいろいろな悩みを持っているので、親を支援するということでは、親同士を結びつける機能、働きかけを図書館が持てたらいいと思います。例えば子育てを支援するコーナーがあることを周知して、親同士が本を介して語り合ったり、連れてきた子どもは託児に預けて保育士が読み聞かせをするというような時間を過ごせればいいと思います。

静岡産業大学では、この春から保育士の養成課程がスタートしました。秋には、保育士をめざす学生が図書館で親御さんやお子さんたちに読み聞かせの実習ができればいいと考えています。

(山中委員): どうやったら図書館に来てもらえるのかを考えるのが図書館の腕の見せ所だと思います。

また、図書館には何を聞かれても応えられる専門性の高い図書館司書が必要で、せっかく経験を積んだ高度な知識のある人が異動してしまうのは困ります。支援するより支援できる人を確保して欲しいと思います。

(鈴木委員): 図書館に来てもらうことも大切ですが、本が身近にあることが重要であると思いますので、地域の特性を分析して本を身近に置ける環境を整えてもらいたいと思います。

また、豊岡東小学校が統合されたことにより、図書室にあった本がどこに行ったか興味があります。地域の価値がある本もあったかと思いますが...

(内田委員): 豊岡北小学校の図書室にあります。現在整理中です。

(原田委員): 磐田市でも実施しているブックスタートは対象者の100%に近くなるほど努力してくれています。あまり本が好きじゃなかった母親も一緒に参加することができるいい事業だと思います。是非、継続してもらいたいです。

また、「大人にこそ絵本を」といわれていますが、絵本は10分もあれば読むことが出来ますし、心にしみるようなものがあります。親も一緒に巻き込むような取り組みを学校に期待していますし、図書館も支援して欲しいです。

茶の間の読書事業は、長く続いていて磐田の宝だと思います。3年生だけでなく、もっと低学年から実施すれば効果が上がると思います。

学校は、それぞれいろいろな活動をしていますので、図書館はそのバックアップをしていただきたいと思います。

(兼子委員): この議題の「子育て世代」とは何を意図しているのかよく理解できません。みなさんからの意見を求めているものであるのか、市のほうで何か視点が絞られているものであれば示してもらえれば話し合いがうまくいくと思うのですが…。

(伊藤館長): 只今ご指摘がありました、議題のとらえ方がうまく伝わらないことについては反省していますが、現在図書館が考えていることは、子どもたちが多少騒いだり、のびのびと利用できたり、親がいろいろと相談できるような施設にできないか調査・研究をしています。まだ、予算化されていませんが、児童書に特化した図書館についての研究をしています。

先日、豊田図書館長以下、市の職員で先進地を視察してまいりましたので、その内容を永田館長から報告させていただきます。

(永田館長): 図書館を子育ての多目的な施設の核にできないかと考える中で参考にするために、図書館職員、学校教育課職員、子育て支援課職員、建築住宅課職員でチームを組みまして、6月5日に流山市、市川市、江戸川区の3か所を視察してきました。

最初に、今年4月に流山市に新設された小中一貫校内の子ども図書館を視察しました。2階の学校図書室のすぐ隣のフロアに一般住民対象の子ども図書館を造ったものでした。小学生までを対象としていますが、実態は就学前の子ども連れが圧倒的に多く、まわりが新興住宅地で若い世代が非常に多いことによるためだと思われます。「母親になるなら流山市」のキャッチフレーズに沿った、このようなコンセプトの発想は良いとは思いますが、場所も小さく(10坪位)、蔵書も7,000冊と非常に少ないので、絵本のコーナーなどは豊田図書館の「えほんのへや」の方が大きいし、全体でも磐田市内の旧公民館の図書コーナーを少しおおきくした程度でした。また、学校内ということで、事務所で入館証をもらい、スリッパに履き替えて行かなくてはならないし、ベビーカーは衛生面から立ち入り禁止とのことでした。視察当日の利用客は少なく、開店休業の状態でしたが、土・日曜日は多くのお父さんが子連れで入館するようです。まだ、運用を始めて2か月のため、試行錯誤の段階であると感じました。

2か所目の市川市立生涯学習センターメディアパークは、「よむ、まなぶ、あそぶ、きく」をコンセプトとした複合文化施設で、中央図書館(中学生以上対象)、こども図書館(小学生以下対象)、こども館(児童館+子育て支援センター)、文学ミュージアム、音楽スタジオ、小ホール、展示室等々、様々な学習ができる施設でした。図書館部門では、一般と子どもを完全に区分しているところが斬新であり、参考となりました。児童書は約10万5,000冊(開架に約3.5万冊、倉庫に約7万冊)で、豊田図書館(約5.5万冊:開架3.2万冊+閉架2.3万冊)と比較して、開架の点数は変わりませんが、書棚が低く子どもにとっては見やすく、

大人からは目が届きやすく、非常にゆとりのあるレイアウトになっていました。

また、お話しの部屋が大きく、照明にも凝っていたことが目をひきました。利用者は、この複合施設に入館の際に左の中央図書館に行くか、右のこども図書館やこども館に行くかの選択をしているようです。年代によって分りやすい動線となっているので、お互い気兼ねをせずに自分に合った環境を享受できていると感じました。

3か所目の江戸川区立篠崎子ども図書館とこれに同居する子ども未来館は、子ども多く、子育てに強い区を標ぼうしているだけあって、1階の子ども図書館を「子どもライブラリー」、2階の未来館を「子どもアカデミー」と言い、展示施設ではなく、とにかく体験、実験、研究のプログラムを通年のゼミ方式で提供するコンセプトで、図書館の役割はそのプログラムの実施に必要な図書や情報を提供するということでした。もちろん、幼児と小学生向けの資料を約4万冊備えているため、通常の図書館機能は十分で、ここの売りはなんといっても、2階の生物科学実験室、工作実技研究室、屋上の菜園、風力発電、太陽光発電の設備などを、小中学生に自由に使ってもらい、専門的なクラブ活動や個人の自由研究がいつでもできるように支援していることが特徴的でした。ここの館長も、「子ども図書館というと子育て支援センターとの抱き合わせ施設が多いようだが、当館は敢えてそこを外した」と言っていました。なにしろ、子ども図書館長も理科の研究者のごとく白衣を着て業務にあたっており、メインは体験学習にあることをアピールしていました。

総括として、一番参考になったのは市川市の子ども図書館と併設のこども館でした。子ども図書館の役割はやはり、読み聞かせが重要なファクターであるし、図書の種類もYAも含め一緒に充実させたいし、学校図書への支援も外せません。

また、併設している支援センターや児童館的機能も、とてもニーズがあると感じました。この辺りを参考に、磐田市もこどもをキーワードとした有機的な施設とすることができれば良いと感じました。

(寺田委員): 子どもにどんな本を読ませればいいのかなどの選書ができたり、きちんと対応できる専門の知識をもった職員が配置されることが必要であり、ハード面の整備よりむしろ重要なことだと考えています。その辺の情報を行かれた先進地から提供してもらえれば良いのではないかと思います。

(山中委員): 立派な施設を作ることも大事なかもしれませんが、子どもたちをつなぐ人の充実をしてから取り組むべきだと思います。

(議長): ありがとうございます。伊藤館長、総評が何かありますか。

(伊藤館長): 貴重なご意見ありがとうございました。委員の皆様の見解を今後の施策の参考にして行きたいと思います。

(教育長): 皆様の意見を伺って、物理的な部分だけでなく、人を繋げて結び付けていくことや点と点を結んでいく重要性をあらためて感じました。

(鈴木委員): その他として『絶歌』に対する磐田市立図書館の対応はどのようにするので

しょうか。

(伊藤館長): 慎重に検討して、磐田市立図書館としての対応をしていきます。

(議長): その他、事務局から連絡事項等はありませんか。

(青島主査): 本年の11月9日に静岡県の図書館大会が開催されます。委員の皆様にも是非ご参加いただきますようお願いいたします。開催日が近づきましたら、再度ご案内いたします。また、第2回の図書館協議会は来年2月の開催を予定していますので、ご出席をお願いいたします。

(議長): 以上で、本日の議事をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

9 閉会(青島主査)

青島会長、議事進行ありがとうございました。

皆様方のご協力により、予定どおり進行することができました。また、大変熱心にご協議いただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、平成27年度第1回磐田市立図書館協議会を閉会いたします。
お疲れ様でした。